2017 年 4 月 30 日

# 助成事業実施報告書

団体名 東京コウモリ研究会

代表 氏名 重昆(かさひ) 達也(たつや)

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

奥多摩山地の尾根に東京都未記録のコウモリ類を探して－東京都産のコウモリ類の適切な次期レッドリスト評価に向けて

## 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

東京都(本土部)には 12 種のコウモリ類が記録されていますが、これらの記録は明治～昭和戦前に 23 区内で確認された古いものが多く、武蔵野台地や丘陵地の開発が進んだ戦後に至っては東京都内のどこにどのようなコウモリが生息しているのかほとんど何も判っていませんでした。このような現状から 1997 年より有志による自主研究から東京コウモリ研究会の活動は始まりました。会員数 10 名。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

東京コウモリ研究会では、2001 年以降、東京都で明治以降に記録のある 12 種のコウモリのうち、11 種のコウモリが今も奥多摩山地に生息していることを明らかにしてきました。しかし、奥多摩山地には、実際には生息しているにもかかわらずまだ発見できていないコウモリがさらに数種いることが予想されます。つまりこれは保護・保全の配慮が必要なコウモリ類が存在しているのに、東京都版レッドリストで適切な評価がなされていないものがいる可能性があるということです。奥多摩山地産のコウモリ類の保護・保全に適切な提言を行うためには早急にこれを確認する必要があります。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

奥多摩山地おいてこれまで未発見のコウモリ類が生息するエリアは、アプローチの困難な高標高地(雲取山や三頭山など)の森林と予想されます。そこで本プロジェクトは、今後これらの森林でのコウモリ類調査を行うに当たっての準備段階として、①これらのエリアの森林が現状どのようになっているのか？②捕獲調査に必要な機材を搬入する現実的なアプローチルートがあるのか？③これらの森林には果たしてどのくらいコウモリが飛んでいるのか？を確認するための現地視察に充てるものとしました。現地視察の対象は、東京都最高峰の雲取山および三頭山に至る登山道、ならびに雲取山の東側山麓部の林道や林業用の作業道としました。

## 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPUCT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

雲取山登山 1 回(もう 1 回計画していましたが秋雨前線に阻まれ断念)、三頭山登山一回、雲取山東側山麓部の林道等の調査を 6 回実施しました。この結果、雲取山付近には多様なコウモリ類が生息できる良質な森林があることを確認し、夜間調査でも非常に多くのコウモリが飛んでいることを確認しました。雲取山付近においてコウモリ探知機で確認したコウモリの超音波にはホオヒゲコウモリ類のものが含まれていたので、確認したコウモリ類の飛翔高度なども踏まえると、やはり東京都未記録のコウモリ類がこのエリアの森林に生息している可能性が高いという成果が得られました。これらのコウモリを捕獲することができれば、東京都の作成する次期レッドリストにおいて、東京都産の野生生物の保護・保全により適切な評価を行うことができると考えています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など　300文字まで

| |
|---|
| 今後、雲取山付近で捕獲調査を実施する場合、その最大の課題は捕獲機材を搬入するアプローチルートが結局行程の長い（徒歩で 5～6 時間）登山道しかないということです。この点は、東京都水道局の管理する林道を使わせてもらうことで多少は改善しますが、山小屋が人力やヘリコプターを使って揚げている荷物の一部に含めて機材を運搬する方法なども検討しなくてはならないと考えています。また、東京都水道局の管理する水源林でコウモリ類の捕獲調査が可能か？や登山道を使用する場合には登山客の安全をどう確保するか？など解決せねばならない課題が数多くあります。これらは関係する東京都の部局、自治体、山小屋管理者、山林所有者等と順次協議を重ねながら捕獲調査を可能とする道筋を決めていく方針です。 |

7. 参考資料

| | |
|---|---|
| 支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。 | 参考資料あり |

雲取山視察（石尾根　7 月）

雲取山付近での夜間調査（7 月）